

福島復興に向けて

双葉上旬C班
大北峻・宮岡玲奈・梁志杰・越智悠太・前田進

伝えたい相手

中国の友達

特徴:

- 1—災害の全体はわからない
- 2—東京電力第一原発のことが詳しくない
- 3—福島とその住民の現状と気持ちがわからない
- 4—福島と処理水が安全ではないという先入観と偏見を持っている

伝えたいこと:

震災の被害と現状

→1Fでの見学から分かったこと&安全性の説明

→町の現状

→現地で測った環境放射線量

→当地住民との交流を通じて、皆様の努力している姿を伝えたい

では、この流れで、皆様が私の中国人の友達と仮定して、発表させていただきます。

被害状況—地震・津波

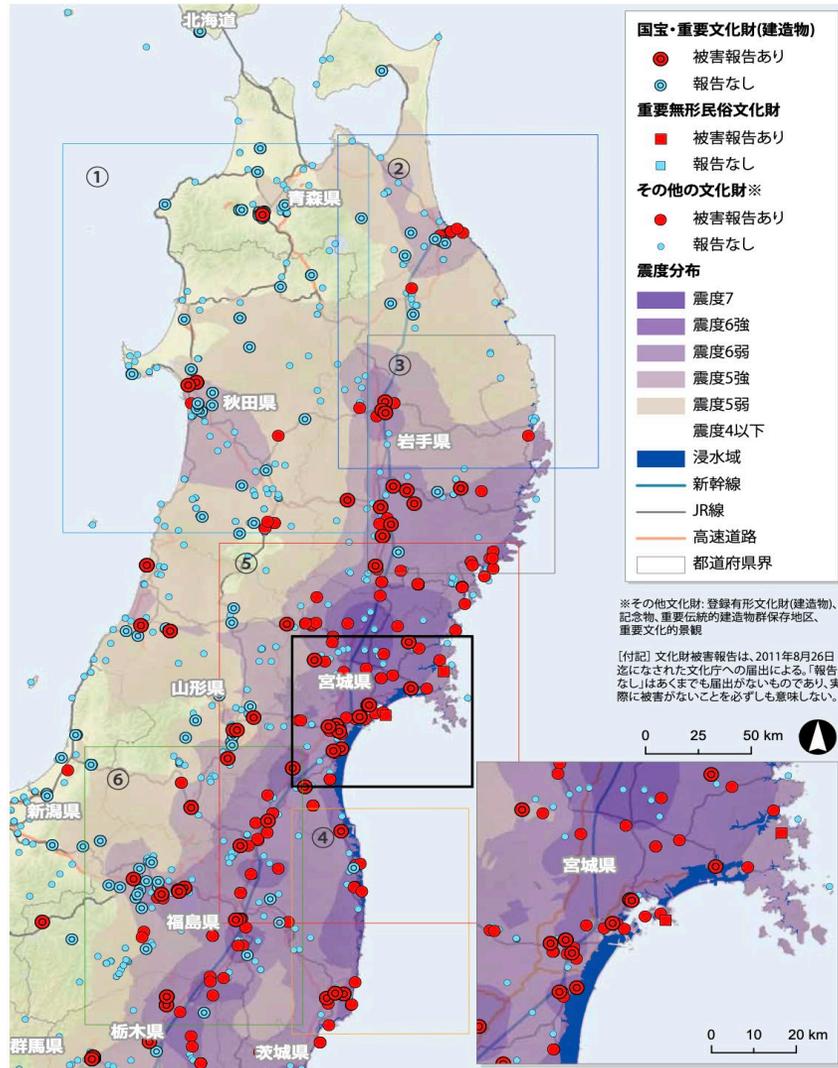
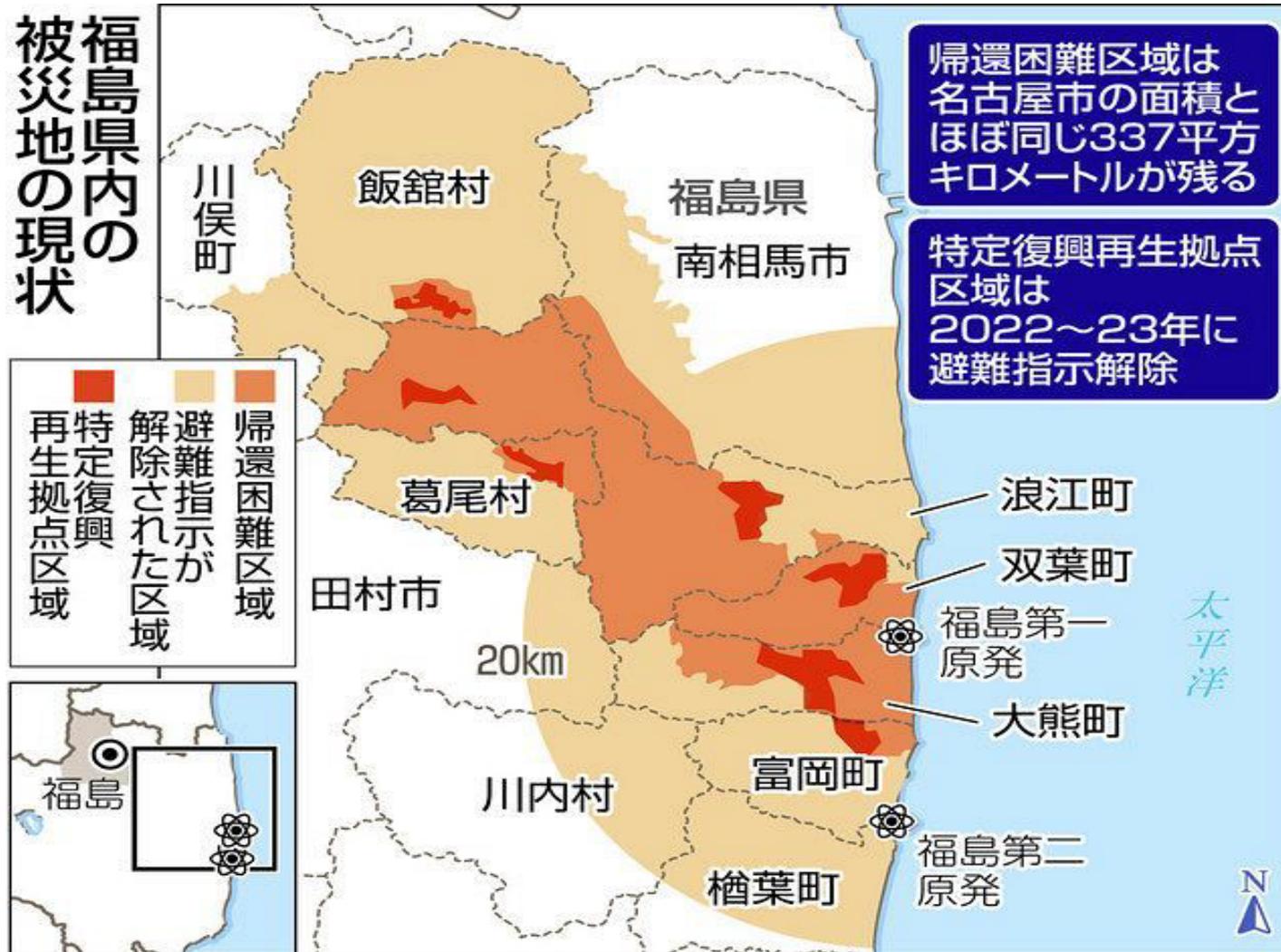


表 3.1-1 人的被害及び住宅等に係る被害の把握状況(平成 24 年 1 月(注1))

都道県名	人的被害(人)			住宅等の被害(戸)					
	死者	行方不明	負傷者	全・半壊		火災被害		一部破損	非住家被害
				全壊	半壊	全焼	半焼		
北海道	1		3		4			7	469
青森県	3	1	61	311	852			832	1,194
岩手県	4,667	1,354	188	20,184	4,555	15		7,316	4,220
宮城県	9,507	1,794	4,132	83,861	138,220	135		215,099	33,809
秋田県			12					3	3
山形県	2		29	37	80				
福島県	1,605	216	182	19,982	63,187	77	3	143,614	1,116
茨城県	24	1	707	3,064	23,839	31		172,749	14,406

被害状況一原発

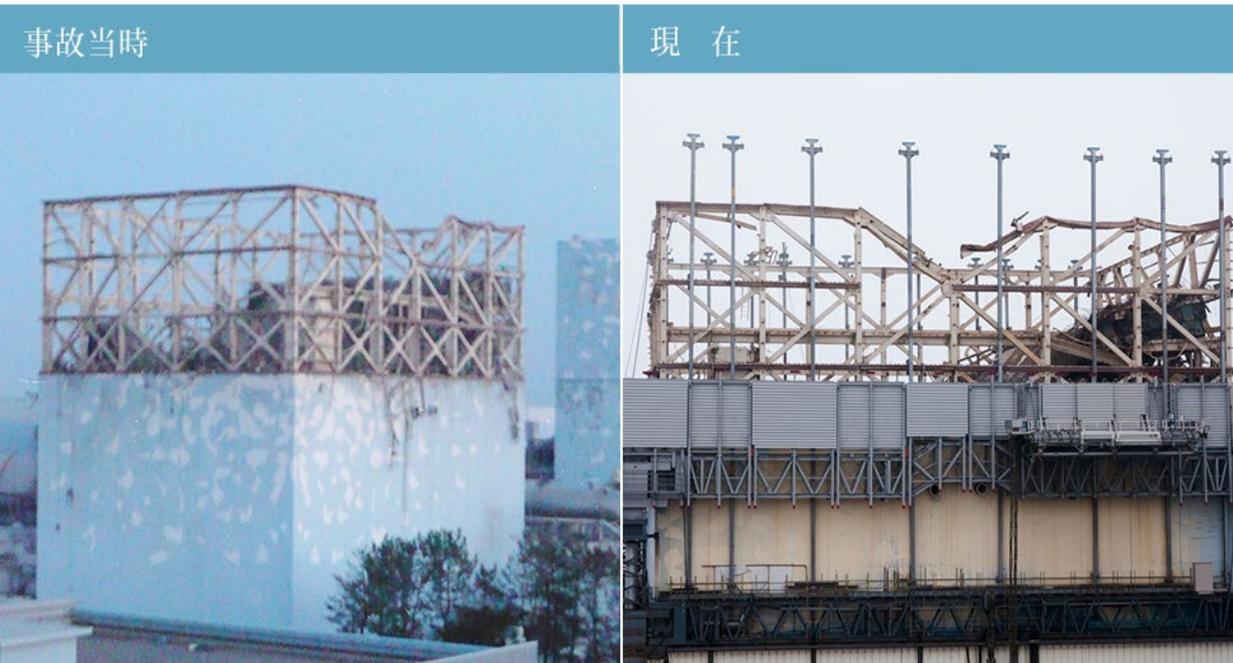


帰還困難区域の面積は337平方キロメートル。

福島第一原発が中心となる。

東京電力での見学

■ 1号機



地震発生後に、水素爆発。
放射性物質を閉じ込める機能が喪失。
今後の燃料取り出しに向け、建屋全体を覆う
大型カバーを設置し、大型カバーの中で
大きな掃除機のような機械を用いて、
ガレキ撤去等を行っている。
遠隔操作できるクレーンで解体中
はかるくんの数値：30-40 μ Sv/h(車の中)

東京電力での見学

■ 2号機

事故当時



現在



隣接する1号機の水素爆発の影響により原子炉建屋の壁の一部が破損した。水素爆発まで至らなかった。水素が発生。

建屋南側に、取り出し用の構台を建設して建屋にアクセスし、使用済み燃料を搬出する予定。

東京電力での見学

■ 3号機

事故当時 建屋上部から撮影



現在



制御棒を挿入し「止める」ことに成功。
ドーム型の屋根を設置して、2019年4月に、
使用済燃料プールからの燃料取り出し作業を
開始し、2021年2月に使用済燃料プールに
あった全ての燃料を建屋外に取り出し、
リスクは大幅に低減。

双葉の現状－住民 & 避難者

1、震災前、町人口は7000人余りだったが、今は60-70人にすぎない

福島県内に避難されている方	3,873人
福島県外に避難されている方	2,697人

双葉の現状—環境放射線

ネットで公開されたデータ

地区	地点	測定日			
		平成24年4月1日	平成26年1月28日	令和3年11月28日	令和5年9月1日
新山	第一分団屯所	—	1.26	0.34	0.14
新山	新山公民館	—	0.74	0.15	0.14
新山	双葉町歴史民俗資料館	—	0.63	0.16	0.17
新山	双葉南小学校	—	0.80	0.16	0.18
新山	双葉中学校	—	0.97	0.16	0.19
新山	県立双葉高等学校	—	1.38	0.18	0.19
新山	中央公園	—	0.96	0.19	0.19
新山	国道6号線高万迫地内	—	—	—	0.72
下条	双葉総合公園	2.60	1.63	0.54	0.56
下条	旧双葉町役場	—	2.10	0.18	0.20
郡山	郡山公民館	1.48	1.01	0.29	0.27
細谷	細谷公民館	—	1.25	0.29	0.26
三字	三字公民館	2.53	1.53	0.14	0.15
山田	山田農村広場	24.47	14.24	3.08	3.11
石熊	石熊公民館	12.10	7.46	1.44	1.48
長塚	双葉町体育館跡地	6.25	3.58	0.44	0.39

多くの所の放射線量は
0.1—0.3 μ Sv/h

1 μ Sv/h以上のところ
も何ヶ所があるが、
事故の直後と比べると、
大幅に低下した。

双葉の現状一帰還困難区域測定 (Gyoroigeiger)

私たちが測ったデータ



双葉の現状―帰還困難区域測定と考察

採取場所:三字

土:地表から5cmの土&コメナモミの下の土 & 地下ライナー0-13.8cm の土

植物:コメナモミ

考察1:コメナモミの下の土 < 地表から5cmの土 (放射能濃度)

1038 ± 38.42Bq/kg

2106 ± 46.19Bq/kg

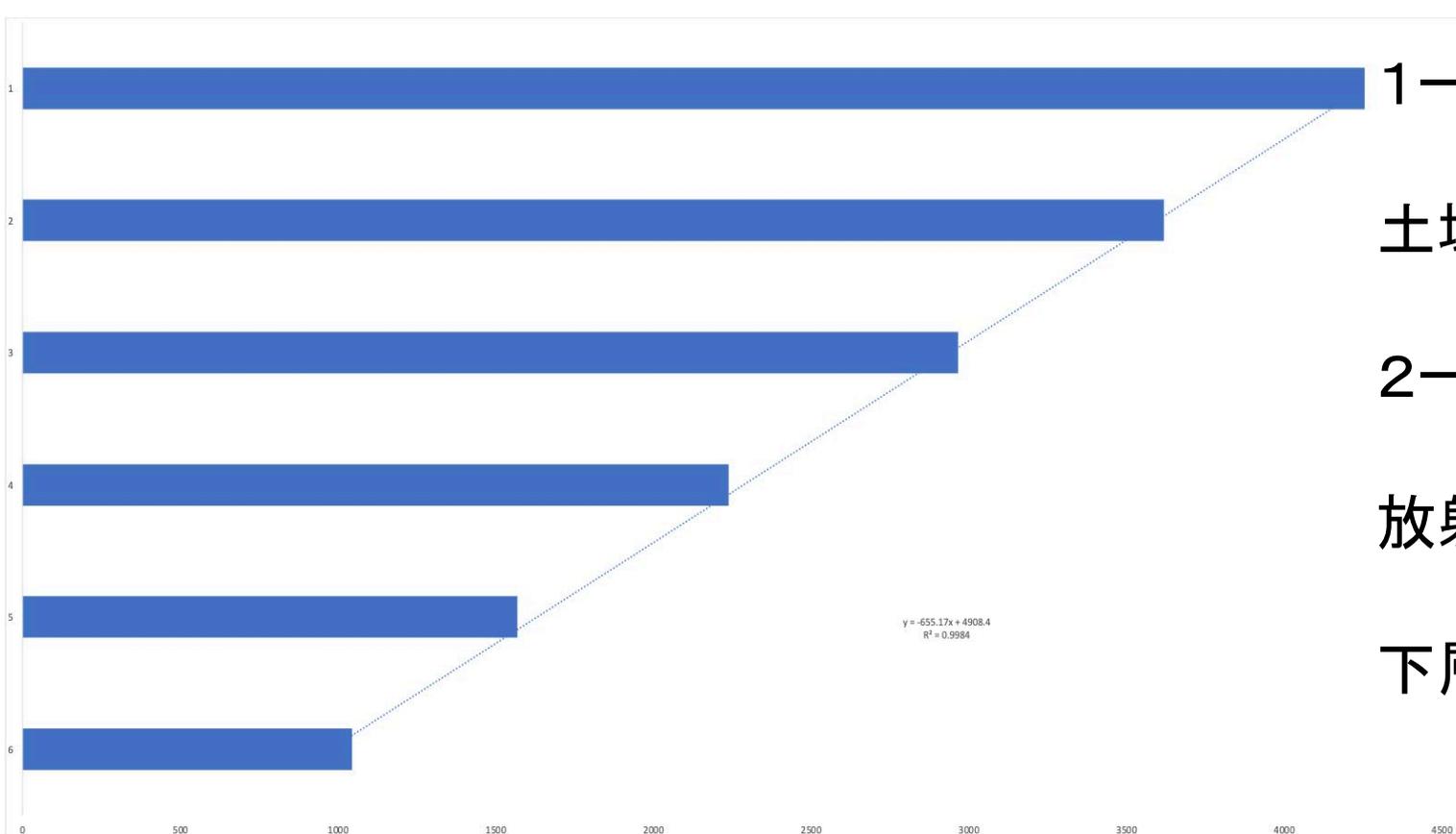
原因1:樹葉や枝などは、空中に拡散する放射性物質を最初に吸収する可能性がある。

原因2:雨によって流された放射性物質が溜まっていた可能性がある。

双葉の現状―帰還困難区域測定と考察

ライナーの考察：深い土壌ほど、放射性濃度が一次関数で下がっていた。

$$Y = -655 * X + 4908.4 \quad (Y: \text{放射性濃度}; X: \text{土壌の深さ})$$



1―放射性物質が最初に大気から
土壌の表面に沈着した。

2―土壌の上層では生物活動が活発で
放射性物質が混ざり合うことが多く
下層への移動が限られている。

双葉の現状—当地住民との交流

山崎さんの意見

- 移住推進の必要性と挑戦
- 補助金・事業の支援
- 破格の家賃・税金・人件費の補助

保健師さんの意見

- 「ふるさとカード」の意義と役割
- 健康調査と行政の負担
- 賠償金の問題と若者の就労
- 放射線に関する情報提供と恐怖の克服
- 行政の役割と方向性
- 移住と交流の重要性

双葉の現状－教育

現状：

双葉北小学校（いわき市）：生徒十五人、先生七人

双葉南小学校（いわき市）：生徒十四人、先生七人

当地の人との交流を通じて、わかつとこと：

1一町内に住んでいる子供は何人かいるが、
タクシーで町外の学校を通っている。

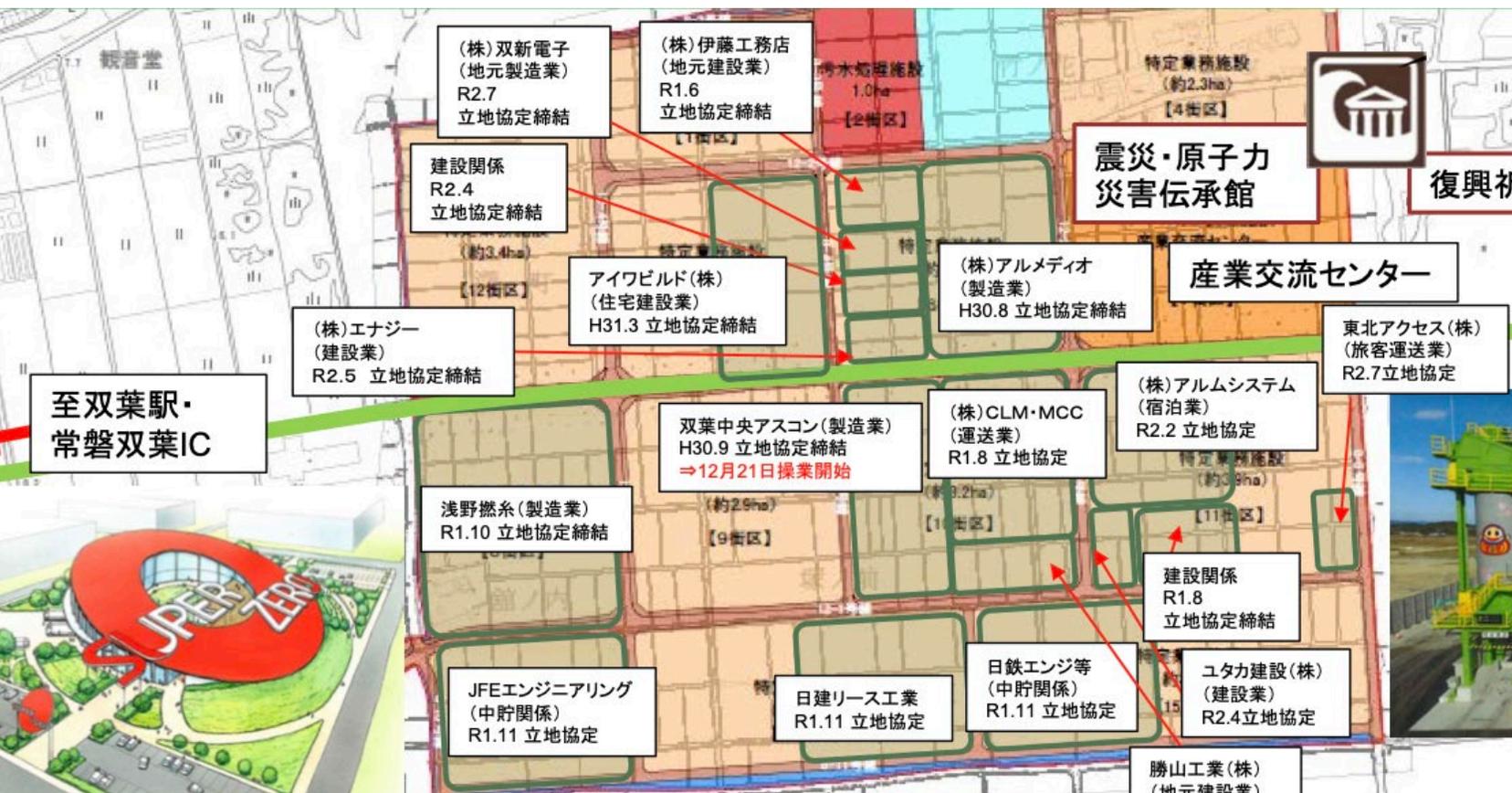
2一学校の設置

双葉中学校が5年後の再建を目指している。



双葉の未来一産業

生業づくり 中野地区復興産業拠点



町の新たな「動く拠点」を整備した。

地元企業の帰還再開が実現している。

再開補助金と帰還支援補助金を活用。

災害伝承館と祈念公園が整備。

まとめ

私が福島を実際に訪問し、原発や震災の状況、地域の取り組みを直接学び、先入観が変わった。ALPS処理水の誤解、地域の復興努力を知り、福島の明るい未来を信じるようになった。

原発がもたらした影響は予想以上に大きいものであり、簡単に復興できるものではない。しかし、現在暮らしやすい街を作り、人口を回復するために、産業や教育という社会の根幹を再生しようとしている。